

関西文化学術研究都市の明日を考える懇談会 設 立 趣 意 書

関西文化学術研究都市（以下「学研都市」という。）については、昭和 62 年に関西文化学術研究都市建設促進法が制定され、さらには平成 8 年の「関西文化学術研究都市の今後の整備方策について」（セカンド・ステージ・プラン）の答申を受け、この間、文化、学術及び研究の中心となるべき都市を建設し、もって我が国及び世界の文化等の発展並びに国民経済の発達に資することを目的に、産・学・官の連携のもと、都市建設が進められてきたところである。

現在では、主要な立地機関は 80 施設、学研都市の人口は約 7 万人（学研都市域は約 22 万人）に達し、我が国における文化学術研究の中核的な拠点として位置付けられている。

しかしながら、今日、世界経済のグローバル化が進む中、ナノテク、バイオ、IT 等の技術革新、それに伴う情報家電、ロボット等の先端産業の創造など、社会経済環境は大きな変化を見せており、こうした状況に的確に対応するため、本学研都市の果たす役割は一層重要になってきている。

そこで、これからの時代を展望しつつ、学研都市の建設をどう展開していくのか、セカンド・ステージ・プラン以降の学研都市の目指すべき方向について提言をいただくことを目的として、「関西文化学術研究都市の明日を考える懇談会」を設立するものである。